

2021 年度
東北学院大学
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）
スキルアッププログラム
（履修証明プログラム）
自己点検・評価報告書

2022 年 6 月
東北学院大学
地域連携センター

1. はじめに
2. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムとは
3. 教育プログラム等の内容
 - (1) 受講要件
 - (2) カリキュラム
 - (3) 修了要件
 - (4) フォローアップ授業科目
4. 新型コロナウイルス感染症対策による開講形態の変更等
 - (1) 受講生への対応
 - (2) 講師への対応
 - (3) 授業の運営方法等に関する変更
5. 広報活動、受講者等の状況
 - (1) 広報活動等
 - (2) 受講生等の状況
6. 受講状況、修了者の状況
7. CSWスキルアッププログラムにおける自己点検・評価体制等
 - (1) 自己点検・評価の体制
 - (2) 自己点検・評価の公表
8. 受講生（修了生）アンケート実施結果
9. 自己点検・評価について（アンケート等に基づく次年度以降への変更・検討等）
 - (1) 自己点検・評価、ならびに次年度以降への改善、充実等
 - (2) 遠隔授業の導入について
 - (3) アーカイブ動画の利用方法について
 - (4) プログラム受講に対する敷居を下げる方法について
10. 終わりに

1. はじめに

東北学院大学（以下、「本学」という）は、1886（明治19）年創設の「仙台神学校」を母体とし、前身となる「東北学院」を経て（1891（明治24）年改称）、1949（昭和24）年に設置された。設置以来、福音主義キリスト教の精神に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」という建学の精神を堅持、具現化する努力を続け、今日に至るまで、地域社会の発展に貢献しうる人材の育成に寄与してきた。現在は東北地方を代表する私立総合大学として、累計18万人を超える卒業生を輩出している。

本学は設立以来、地域連携・社会貢献を、その重要な使命の一つとして位置づけてきた。2014年、文部科学省「地（知）の拠点整備事業」に採択され、その取り組みをもとに、学卒者養成のみならず、地域社会の活性化、地域福祉の充実を担いようとする社会人教育を実践するため、2016年度に「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム」（以下、「CSWスキルアッププログラム」または、「本プログラム」という）を開設した。2021年度に開講6年目を迎えた本プログラムの自己点検・評価結果を、本報告書にまとめた。

2. コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムとは

地域福祉・社会福祉現場の課題に直結する本格的、実践的な授業内容を通して、まちづくりのキーパーソンであるコミュニティソーシャルワーカー（CSW）のスキルアップを目指す教育プログラムである。

CSWスキルアッププログラムは、本学の重要な使命の一つである、地域連携・社会貢献に寄与すべく、学校教育法第105条及び学校教育法施行細則第164条に基づき、2016年4月より履修証明プログラムとして開講している。開設以来、宮城県内の社会福祉、地域福祉分野に従事する社会人を中心に受講生を受け入れ、2021年度末時点で、累計修了者数は60名を超えた。

なお、本プログラムは、2016年度の開設時より文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定されている。

3. 教育プログラム等の内容

C SWスキルアッププログラムは、その開講科目を、基礎科目、必須理論、実践技法、特論演習、事例研究の5つに分類し、体系的、かつ包括的な内容になるようプログラムを構築している。上述の科目分類のうち、基礎科目及び必須理論を構成する科目群は必修科目とする一方、実践技法、特論演習及び事例研究の科目群については選択科目として設置し、受講生の興味・関心に応じた履修を可能にしている。また、プログラム全体のおおよそ中間時に「中間報告会」、最終科目に「最終報告会」を設け、それぞれの段階における修得度等を測定している。

(1) 受講要件

本プログラムは、以下の2つを受講要件として定めている。

- ① 高等学校、または中等教育学校を卒業した者。または、大学を受験できる資格を取得した者。
- ② 社会福祉協議会に関わる職員。ただし、地域づくりに貢献したいと考える方の受講も可能。

※社会福祉分野における就業経験等を持たない場合でも、地域づくりに貢献したいという意思を持つ者については、受講可否判定のうえ受講を認めている。そのため、十分な受講意思・意欲等があると判断された場合、大学生等の受講も可能。

(2) カリキュラム

2021年度は、必修科目19科目（57時間）、選択科目30科目（90時間）の計49科目（147時間）によるカリキュラムを構築した。設置科目の具体的な内容は、次表記載の通りである。

2021年度 開講科目・担当講師一覧（講師の所属等は2021年3月（受講生募集）時点）

科目分類	科目名	担当講師	時数	
必修科目	基礎科目	地域福祉の時代とコミュニティソーシャルワーク	阿部重樹 （学校法人東北学院常任理事）	3
		コミュニティソーシャルワークⅠ	村山くみ （東北福祉大学総合福祉学部）	3
		コミュニティソーシャルワークⅡ	村山くみ （東北福祉大学総合福祉学部）	3
		ケースワーク	竹之内章代 （東北福祉大学総合福祉学部）	3
		社会保障制度の新たな動向Ⅰ	阿部裕二 （東北福祉大学総合福祉学部）	3
		社会保障制度の新たな動向Ⅱ	宮城県職員 仙台市職員	3
		コミュニケーション基礎論とICT活用	坂本泰伸（東北学院大学教養学部）	3
	必須理論	データによる社会調査・分析（社会疫学）Ⅰ	鈴木寿則 （仙台白百合女子大学人間学部）	3
		データによる社会調査・分析（社会疫学）Ⅱ	鈴木寿則 （仙台白百合女子大学人間学部）	3
		データによる社会調査・分析 （ライフストーリー聞き取り）Ⅰ	黒坂愛衣 （東北学院大学経済学部）	3
		データによる社会調査・分析 （ライフストーリー聞き取り）Ⅱ	黒坂愛衣 （東北学院大学経済学部）	3
		地域の施策と資源理解Ⅰ	西塚国彦（宮城県社会福祉協議会）	3
		地域の施策と資源理解Ⅱ	岩淵徳光（仙台市社会福祉協議会）	3
		地域社会とCSR（企業の社会的責任）	矢口義教（東北学院大学経営学部）	3
		組織運営	和田正春（東北学院大学教養学部）	3
		地域福祉活動計画Ⅰ	岩淵徳光（仙台市社会福祉協議会） 佐々利春（富谷市社会福祉協議会）	3
		地域福祉活動計画Ⅱ	増子正（東北学院大学教養学部）	3
	報告会	中間報告会	東北学院大学地域連携センター	3
		最終報告会	東北学院大学地域連携センター	3

科目分類	科目名	担当講師	時数	
選択科目	実践技法	地域福祉とファンドレイジングⅠ	久津摩和弘（日本地域福祉ファンド レイジングネットワークCOMMNET）	3
		地域福祉とファンドレイジングⅡ	久津摩和弘（日本地域福祉ファンド レイジングネットワークCOMMNET）	3
		協働の手法Ⅰ	遠藤智栄（地域社会デザイン・ラボ）	3
		協働の手法Ⅱ	遠藤智栄（地域社会デザイン・ラボ）	3
		ファシリテーションの実際とワークショップ運営	渡邊一馬（ワカツク）	3
		ファシリテーショングラフィックス	石塚直樹 （東北学院大学地域連携センター）	3
		災害ボランティア論	渡邊圭 （東北学院大学地域連携センター）	3
		災害ケースマネジメント	北川進（宮城県社会福祉協議会）	3
		健康格差論	鈴木寿則 （仙台白百合女子大学人間学部）	3
		傾聴の技法	阿部重樹 （学校法人東北学院常任理事）	3
		コミュニティビジネス	吉澤武志 （筆甫地区振興連絡協議会）	3
		コミュニティ設計	手島浩之（都市建築設計集団/UAPP）	3
		東日本大震災と地域福祉	真壁さおり（宮城県サポートセンタ ー支援事務所）	3
		臨床宗教学（聴くことのカ - カフェでもんくの事例か ら）	金田諦應（曹洞宗通大寺）	3
		リスクコミュニケーション	大谷みち子（福島県浪江町）	3
		発達障害者支援	皆川美雪 （宮城学院女子大学学生相談室）	3
		特論演習	特論演習ⅠA（高齢者支援と地域社会）	折腹実己子（宮城県社会福祉士会）
	特論演習ⅡA（生活困窮者支援と地域社会）		後藤美枝 （パーソナルサポートセンター）	3
	特論演習ⅢA（子育て支援と地域社会）		小岩孝子 （FORYOUにこにこの家）	3

科目分類	科目名	担当講師	時数
選択科目	特論演習		
	特論演習ⅣA（障害者支援と地域社会）	伊藤清市（仙台バリアフリーツアーセンター）	3
	特論演習ⅥA（精神障害者支援と地域社会）	菅原里江 （東北福祉大学総合福祉学部）	3
	特論演習ⅧA（SDGsと地域社会）	紅邑晶子（SDGsとうほく）	3
	事例研究		
	事例研究ⅠA（まちづくりとコミュニティソーシャルワーク：仙台市を事例として）	宍戸充（仙台市社会福祉協議会）	3
	事例研究ⅠB（まちづくりとコミュニティソーシャルワーク：南三陸町を事例として）	高橋史佳 （南三陸町社会福祉協議会）	3
	事例研究ⅡA（女川町を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	千葉信二（女川町社会福祉協議会）	3
	事例研究ⅡB（柴田町を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	相原美由紀 （柴田町地域包括支援センター）	3
	事例研究ⅢB（市民セクター／社会的経済の展開とその課題）	齊藤康則（東北学院大学経済学部）	3
事例研究Ⅳ（地域活動を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	増田恵美子 （富谷市Naritaマルシェ）	3	
事例研究Ⅴ（栗原市若柳を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	高橋由利（栗原市社会福祉協議会）	3	
事例研究Ⅵ（原発事故被災地を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	ダクルス久美 （CSW1期（2016年度）修了生）	3	

(3) 修了要件

本プログラムは、以下の3つを修了要件として定めている。

- ① 120時間以上（必修科目57時間、選択科目63時間以上）の講義を履修し、実出席時間が96時間以上であること（欠席時は、授業収録映像を視聴する）
- ② 履修科目ごとに提出するミニッツペーパーの点数が合格ライン以上であること
- ③ 最終報告会で合格の評価を得ること

(4) フォローアップ授業科目

CSWスキルアッププログラムでは、過年度の修了生に対する学びのサポートとして、2018年度より「フォローアップ授業科目」制度を設けている。同制度の対象となるのは、当該年度の前年度に開講していない科目である。例えば、2018年度のフォローアップ授業科目は、2017年度に開講していなかった科目（2018年度の新規開講科目）となる。

2021年度は、以下の11科目を、フォローアップ授業科目の対象とし、過年度修了生にも公開した。

2021年度 フォローアップ授業科目一覧

日程	科目	講師
6月19日（土）	事例研究Ⅵ （原発事故被災地を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	ダクルス久美
7月17日（土）	臨床宗教学（聴くことのカフェでもんくの事例から）	金田諱應
7月31日（土）	東日本大震災と地域福祉	真壁さおり
7月31日（土）	発達障害者支援	皆川美雪
8月7日（土）	コミュニケーション基礎論とICT活用	坂本泰伸
8月7日（土）	事例研究Ⅴ（栗原市若柳を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	高橋由利
10月16日（土）	リスクコミュニケーション	大谷みちこ
11月27日（土）	コミュニティビジネス	吉澤武志
12月18日（土）	事例研究ⅡA（女川町を事例としたコミュニティソーシャルワーク）	千葉信二
1月22日（土）	事例研究ⅠB（まちづくりとコミュニティソーシャルワーク：南三陸町を事例として）	高橋吏佳
1月22日（土）	コミュニティ設計	手島浩之

4. 新型コロナウイルス感染症対策による開講形態の変更等

新型コロナウイルス感染症の再拡大等を受け、2021年度CSWスキルアッププログラムは、開講式、履修証明書授与式を含め、プログラム内容の大部分を遠隔開催とした（2020年度はプログラム内容の全てを遠隔開催）。

なお、本プログラムは2021年度時点で、全ての教育プログラムを対面で行うことを前提にカリキュラム等を構成している。そのため、遠隔開催は、新型コロナウイルス感染症対策による例外的な対応である。

2021年度の開講状況概要

- 【遠隔】 4月24日：開講式
4月24日～10月16日：授業（全34科目。中間報告会含む）
- 【対面】 10月30日～2022年1月22日：授業（全14科目）
- 【遠隔】 2月19日：最終報告会
3月12日：履修証明書授与式（ハイブリッド形式）

(1) 受講生への対応

開講形態の変更等については、以下の通り受講生に連絡等を行った。

4月13日：受講決定通知（合否通知）の発送。併せて、4月及び5月中の講義を、全て遠隔授業にすることを連絡。6月以降の開講形態については、方針決定後に改めて連絡することとした。
また、遠隔授業の実施に先立ち、希望者に対して遠隔会議システム（Zoom）の接続テストを行うことを案内。7名が接続テストを行った。

4月24日：開講式及び初回授業（遠隔）。

5月18日：6月中の講義を遠隔授業にすることを連絡。7月以降の開講形態については、方針決定後に改めて連絡することとした。

6月21日：8月21日の講義（中間報告会）以降、対面授業にすることを連絡（同日までの講義は遠隔授業を継続）。

8月18日：8月20日以降、宮城県内を対象に「まん延防止等重点措置」が適用されることを受け、8月21日の講義を遠隔授業に変更することを連絡（電話及びメール）。

8月23日：9月中の講義を遠隔授業にすることを連絡。10月以降の開講形態については、方針決定後に改めて連絡することとした。

9月29日：10月30日の講義以降、対面授業にすることを連絡（同日までの講義は遠隔授業を継続）。

10月30日：対面授業による初回講義。

以後、2022年1月22日まで対面授業を継続。

2月3日：新型コロナウイルス感染症の急激な再拡大を受け、2月19日に予定されている最終報告会の受講形態（対面参加/遠隔参加）について、受講生に希望調査。なお、最終報告会の授業内容を考慮し、受講形態については、受講生の希望を最大限尊重することを前提に希望調査を行った（担当教員了承のもと、ハイブリッド型授業も前提とした）。調査の結果、9名が遠隔参加、1名が対面参加を希望した。対面参加を希望した1名に状況の説明を行ったところ、全員が遠隔での参加となった。

2月10日：2月19日の最終報告会を遠隔授業にすることを受講生全員に連絡。

2月19日：遠隔授業による最終報告会。

(2) 講師への対応

開講形態の変更等については、以下の通り講師に連絡等を行った。

4月2日：4月及び5月中の講義を、全て遠隔授業にすることを連絡。6月以降の開講形態については、方針決定後に改めて連絡することとした。併せて、4月及び5月に授業を担当する講師に対し、発信場所（学内施設の利用有無）の希望調査を実施。

5月18日：6月中の講義を遠隔授業にすることを連絡。7月以降の開講形態につ

いては、方針決定後に改めて連絡することとした。

併せて、6月に授業を担当する講師に対し、発信場所の希望調査を実施。

6月21日：8月21日の講義（中間報告会）以降、対面授業にすることを連絡（同日までの講義は遠隔授業を継続）。

併せて、遠隔授業を担当する講師に対し、発信場所の希望調査を実施。

8月18日：8月20日以降、宮城県内を対象に「まん延防止等重点措置」が適用されることを受け、8月21日の講義を遠隔授業に変更することを担当教員に連絡（電話及びメール）。

8月23日：9月中の講義を遠隔授業にすることを連絡。10月以降の開講形態については、方針決定後に改めて連絡することとした。

併せて、遠隔授業を担当する講師に対し、発信場所の希望調査を実施。

9月29日：10月30日の講義以降、対面授業にすることを連絡（同日までの講義は遠隔授業を継続）。

併せて、遠隔授業を担当する講師に対し、発信場所の希望調査を実施。

10月30日：対面授業による初回講義。

2月1日：新型コロナウイルス感染症の急激な再拡大を受け、2月19日に予定されている最終報告会について、担当教員に開講形態の事前確認。遠隔授業、ハイブリッド型授業のいずれの形態であっても担当可能であることを確認。

2月10日：受講生に対する希望調査結果（受講形態）を受け、最終報告会を完全遠隔授業（全員が遠隔参加）にすることを担当教員に連絡。

2月19日：遠隔授業による最終報告会。

(3) 授業の運営方法等に関する変更

① 配付資料等について

本プログラムでは、印刷資料等を講義日当日に受講生に配付している。遠隔授業の際は、直前の水曜日に、配付資料のデータ格納先を受講生に通知する運用とした。ただし、講師から印刷済資料の配付希望があった場合は、講義日前日までに受講生に届くよう郵送した。

なお、対面授業で開講した講義については、従来の運用通り、印刷済の資料を当日に配付した。

② 提出課題等について

本プログラムでは、履修科目ごとに提出する課題（ミニツツペーパー）を各講義終了後に作成し、同日中に事務局が回収している。遠隔授業の際は、講義終了後に各自作成し、講義日の翌日中に事務局宛てにメールで提出することとした。

なお、対面授業で開講した講義については、従来の運用通り、講義日中に事務局が回収した。

③ 開講式について

4月24日に対面での開講式開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大等を受け、遠隔による開講式を開催し、10名全員が出席した。

④ 履修証明書授与式・修了式について

2022年3月12日に対面での履修証明書授与式・修了式開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の再拡大等を受け、ハイブリッド型での開催に変更した。開催規模は大幅に縮小し、修了生10名のうち代表1名のみを学内会場（ホーイ記念館ホール）に招き、他9名の修了生については遠隔参加とした結果、10名全員が出席した。なお、2021年度は10名の修了生のうち、2名が履修科目の全てに実出席をし、皆勤賞として表彰を受けた。

また、修了生代表1名については、履修状況、出席状況及び最終成績等を総合的に判断し、事務局が選出した。

5. 広報活動、受講生等の状況

(1) 広報活動等

① 名義後援団体への広報

CSWスキルアッププログラムは、宮城県、仙台市を始め、下表記載の40団体から名義後援を受けている。全ての名義後援団体に対し、継続的に募集要項等を送付し、広報活動を行っている。名義後援団体からは、プログラム運営上の支援のみならず、所属職員等から毎年度複数名の受講申込みがあり、広報活動の効果が認められる。

2021年度 名義後援団体

宮城県	名取市社協	富谷市社協	亘理町社協	色麻町社協
仙台市	角田市社協	蔵王町社協	山元町社協	加美町社協
宮城県社協	多賀城市社協	七ヶ宿町社協	松島町社協	涌谷町社協
仙台市社協	岩沼市社協	大河原町社協	七ヶ浜町社協	美里町社協
石巻市社協	登米市社協	村田町社協	利府町社協	女川町社協
塩竈市社協	栗原市社協	柴田町社協	大和町社協	南三陸町社協
気仙沼市社協	東松島市社協	川崎町社協	大郷町社協	仙台市地域包括 支援センター連絡協議会
白石市社協	大崎市社協	丸森町社協	大衡村社協	みやぎ生活協同組合

※上表における「社協」は社会福祉協議会を表す

② 本学ウェブサイトでの広報

本プログラムの運営主体である、本学地域連携センターのウェブサイト*内でプログラム紹介を行っている（募集要項データも掲載）。募集要項の送付先以外や本学学生から、受講申込みのある年度もあり、一定の効果があると考えられる。2021年度は、ウェブサイトを通して本プログラムの情報を取得した者1名から、受講申込みがあった。

③ パンフレット（印刷物）等

開講科目・担当講師の情報を掲載したCSWスキルアッププログラム募集要項を毎年度制作している。募集要項は、名義後援団体に加え、宮城県内の地域包括支援センターや社会福祉法人等に送付している。送付先団体から、毎年度受講申込みがあり（2021年度は1名）、一定の効果があると考えられる。

* 東北学院大学地域連携センター <https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/iprc/program-2>

④ マナパスへの掲載

リカレント教育等の情報発信サイト「マナパス*」に、毎年度最新の講座情報を掲載している。全国のリカレント教育情報等をまとめたサイト上で広報を行うことにより、本プログラムの知名度上昇が期待される。

⑤ 地域科学研究会・高等教育情報センター主催のセミナーでの事例紹介

2021年11月12日に日本教育会館（東京都千代田区）で開催されたセミナー「リカレント教育の本格展開 - 職業実践力育成／履修証明プログラムの運用と検証」（主催：地域科学研究会・高等教育情報センター）内で、CSWスキルアッププログラムの事例紹介等を行った。なお、本プログラムの開設に至る背景等を含めた紹介を求められたため、CSWスキルアッププログラム設立当時の本学地域共生推進機構長である阿部重樹学校法人東北学院常任理事（総務担当）が講演を担当した。

⑥ 文部科学省「大学等におけるリカレント講座の持続可能な運営モデル構築事業」

文部科学省の令和3年度「大学等におけるリカレント講座の持続可能な運営モデル構築事業」における実証研究モデルに、CSWスキルアッププログラムが選定された。同省及び同事業の委託先である株式会社野村総合研究所と、プログラムの改善等に関し、2021年9月以降複数回の打ち合わせ等を行った。

なお、実証研究においては、株式会社野村総合研究所主導のもと、本プログラムの名義後援団体（4団体）に対し、ニーズ調査等を目的としたインタビューを実施した。実証研究の結果は、2022年3月に株式会社野村総合研究所より、最終報告書として提供を受けている。

⑦ その他

CSWスキルアッププログラムは、2016年4月より、文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」の認定を受けている。

また、2017年10月1日より、厚生労働省「教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）」の指定講座となっている。

* マナパス <https://manapass.jp/>

(2) 受講生等の状況

① CSWスキルアッププログラム受講生

2021年2月15日から4月8日までの期間、受講生募集を行い、10名の受講申込み者があった。審査の結果、10名全員が書類審査を通過し、CSWスキルアッププログラム受講生として認められた。

CSWスキルアッププログラム 申込み者数・受講生数

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
申込み者数	18名	15名	10名	11名	9名	10名
(うち、本学学生数)	(1名)	(1名)	(0名)	(1名)	(1名)	(0名)
受講生数	14名	14名	10名	11名	8名	10名
(うち、本学学生数)	(0名)	(1名)	(0名)	(1名)	(1名)	(0名)

② フォローアップ授業科目聴講生

2021年度は下表記載の11科目をフォローアップ授業科目として設置し、延べ17名の申込みがあり、7名が聴講した。

なお、開講日に出席ができない(実出席できない)聴講希望者については、通常の受講生と同様に、授業の録画データを後日送付している。

2021年度フォローアップ授業科目開講状況

日程	科目	開講形態	申込み数	聴講者数 (実出席)
6月19日(土)	事例研究VI	遠隔授業	0	0
7月17日(土)	臨床宗教学	遠隔授業	0	0
7月31日(土)	東日本大震災と地域福祉	遠隔授業	3	2
7月31日(土)	発達障害者支援	遠隔授業	1	1
8月7日(土)	コミュニケーション基礎論とICT活用	遠隔授業	3	2
8月7日(土)	事例研究V	遠隔授業	1	1
10月16日(土)	リスクコミュニケーション	遠隔授業	1	0
11月27日(土)	コミュニティビジネス	対面授業	2	0
12月18日(土)	事例研究II A	対面授業	1	0
1月22日(土)	事例研究I B	対面授業	2	1
1月22日(土)	コミュニティ設計	対面授業	3	0
			延べ 17名	延べ 7名

6. 受講状況、修了者の状況

2021年度は、10名の受講生全員が本プログラムを修了した。10名それぞれの履修及び受講状況は下表(1)記載の通り。今年度は履修科目に対する実出席率の平均が93.2%と極めて高い水準であった。また、履修科目ごとに提出するミニツツペーパーについては60点以上を合格としているが、今年度修了生のうち、最高点（履修科目全体の平均点）取得者の点数は95点、10名の平均点は88点であり、非常に高い水準であると判断できる（下表(2)参照）。

(1) 2021年度CSWスキルアッププログラム 受講状況等

受講生	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	平均
履修科目数	45	40	42	42	41	46	42	40	42	40	42
科目履修率(%)	91.8	81.6	85.7	85.7	83.7	93.9	85.7	81.6	85.7	81.6	85.7
実出席科目数	45	38	35	40	37	44	41	40	40	32	39
実出席率(%)	100.0	95.0	83.3	95.2	90.2	95.7	97.6	100.0	95.2	80.0	93.2

※科目履修率、実出席率については、小数点第2位以下を四捨五入した値を記載

(2) CSWスキルアッププログラム受講生の受講状況推移

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
受講生数	14名	14名	10名	11名	8名	10名
受講生全体平均点	85点	88点	83点	83点	86点	88点
最高点	90点	91点	85点	88点	89点	95点

※小数点以下を四捨五入した値を記載

(参考) CSWスキルアッププログラム受講生の実出席率推移

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
受講生数	14名	14名	10名	11名	8名	10名
実出席率平均	91.7%	88.6%	88.4%	89.9%	91.5%	93.2%

※小数点第2位以下を四捨五入した値を記載

7. CSWスキルアッププログラムにおける自己点検・評価体制等について

本プログラムは、毎年度自己点検・評価を実施することにより、そのPDCAサイクルを実行し、プログラム内容や運営体制等に関する質の向上を図る。

(1) 自己点検・評価の体制

毎年度の受講/修了状況や、担当教員・受講生からの意見等に基づき、教育カリキュラムの内容や運営体制等、本プログラム全般に関する自己点検・評価を行う。

本プログラムの意思決定機関である、CSWスキルアッププログラム運営会議（外部委員を含む）及び地域連携センター会議において、点検・評価を行い、その結果は学内会議を通じて学長に報告する。

(2) 自己点検・評価の公表

自己点検・評価の結果については、本学地域連携センターのウェブサイト等で公表する。

8. 受講生（修了生）アンケート実施結果

2021年度CSWスキルアッププログラム修了生を対象に以下の通り、アンケート調査を実施した（回収期間：2022年4月7日～4月18日。回答数：対象10名のうち9名（回収率：90%）。

① 2021年度のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム全体に対する満足度を教えてください。（選択式/必須回答）

- 満足している →6名
- どちらかといえば満足している →3名
- どちらかといえば不満がある →0名
- 不満がある →0名

② どのような成長・効果を期待してコミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムを受講されましたか。以下の選択肢の中から、当てはまるものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）

- CSW や類する役割での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得 →7件
- 所属する団体での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得 →4件
- 新たな分野・領域に関する知識・スキル等の習得 →3件
- ファシリテーション能力等、CSW や類する役割に求められる特定のスキルの習得/向上 →5件
- ICT 活用等、業務全般をより円滑に進められるスキルの習得・向上 →0件
- CSW や類する役割に必要な最新知識の習得 →5件
- 外部の組織とのネットワーク作り →3件
- その他 →1件

【その他】の回答内容：介護の制度や仕組みの知識

③ 前問（質問②）で回答いただいた内容を習得することはできましたか。（選択式/必須回答）

- 十分に習得できた →1名
- どちらかといえば習得できた →7名
- どちらかといえば習得できなかった →0名
- 全く習得できなかった →0名
- その他 →1名

【その他】回答内容： 介護の制度や仕組みの知識以外は学ぶことができた

④ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムの受講により、ご自身の成長や、業務への良い効果を感じるかについて教えてください。

（選択式/必須回答）

- とても感じる → 2名
- どちらかといえば感じる → 6名
- どちらかといえば感じない → 0名
- 全く感じない → 0名
- 現時点では感じないが、今後効果を実感できると思う → 1名
- その他 → 0名

⑤ 【設問④で「とても感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した方のみ】

※回答対象者8名

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムの受講により、自身の成長や業務への良い効果を「とても感じる」または、「やや感じる」とお答えいただいた方にお伺いします。自身の成長した点や良い効果をもたらしている点について、具体的に教えてください。（記述式/自由回答）

■相談を受けたときの回答する選択肢が増えた

■受講前に学びたいと考えていたファシリテーションの技術や連携・協働などについて学ぶことができました。学んだことを日々の業務で実践していくことで、自分の力として身につけてくると感じています。また、初めて学ぶ内容も多く、新たな視点で物事をみられるようになったと感じています。

■知識が増えた。視野が広がった。

■貸付業務や子ども食堂との対応、民生委員や町内会長、補助金を交付している地域団体からの相談や困りごとを聞くと、CSWの講義で聞いた話が思い出され、『こうしたらどうですか』とアドバイスをしたり、多分こうなる可能性があるなど考え事前に手を打つための準備ができたりするようになった。

■実際の業務で、学んだ知識、スキルをもとに現在の事業について目標や評価方法を振り返り、取り組み方法を強化することができた。

■地域住民との会議を実施する際の会議の組み立て方、話題提供などに関しても学んだ知識やスキルを活かして取り組むことができた。会議では、例年より多くの意見聴取ができた。意見を図式化してまとめ、地域で活用できるような取り組みも進めている。

■個別ケースの中でも、それぞれの関わり方、支援方針を決めていく際に、活かされたものがあったと感じている。

■CSW 領域に関する事項について幅広くかつ新旧の全方向に学ぶことができ、視野が広がった。

■1人で行動しようとするのではなく、ネットワークを活かして支援するように心がけるようになった。

■特に事務所内で情報共有を密にするようになった。

■地域と関わる仕事をしている方とグループワーク等を通じて話す機会がたくさんあったことで、自分自身の考え方の幅が広がりました。

⑥ 【設問④で「とても感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した方のみ】

※回答対象者8名

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムの受講により、自身の成長や業務への良い効果を「とても感じる」または、「やや感じる」とお答えいただいた方にお伺いします。自身の成長や業務への良い効果に関連して、特に役立った講座や内容について、具体的に教えてください

（記述式/自由回答）

■富谷市成田での活動事例。小さな成功を積み重ねることが大切だと学びました。

■ファシリテーショングラフィックや、連携・協働については事前に学びたいと考えており、とても参考になりました。ファンドレイジングについては初めて学ぶ内容でしたが、社協として地域に必要な取組を実践していくために重要なことであると感じました。

■コミュニティソーシャルワークⅠ、Ⅱ

■ファンドレイジング：運営資金の確保がそのまま地域の結束や交流になる

■災害ケースマネジメント：現場と本来やるべき事のギャップを認識

■臨床宗教学：寄り添うことの大切さを知った

■特論演習ⅣA（障害者支援と地域社会）：受益者視点と代替可能な依存先を数多く持つようにすることが自立につながるという視点

■事例研究：実際のケースを知ることができた

■データによる社会調査・分析（社会免疫学）Ⅰ、Ⅱ

■協働の手法Ⅰ、Ⅱ

■ファシリテーショングラフィックス

■ファシリテーションの実際とワークショップ運営

■地域福祉とファンドレイジングⅠ、Ⅱ

■コミュニティビジネス

■事例研究Ⅳ（地域活動を事例としたコミュニティソーシャルワーク）

■災害ケースマネジメント

■特論演習ⅧA(SDGs と地域社会)

■コミュニティとの関わり方、福祉だけではない視点、根拠を強化する、評価方法、解決策に進んでいくための取り組み、価値のすり合わせと見せ方など。ベースとなる世情、施策等の知識をもとに、具体論などが活かされたと感じています。

■事例研究については、現場の生の声と熱量を学び取ることができ、貴重な機会となりました。

■コミュニティソーシャルワーク

■協働やネットワーク作りに関する内容

■講座内でのグループワーク

■経験や基礎知識がないままファシリテーターの役割を担う機会が増えてきており、苦手意識を持っていたので、基礎的なことから学ぶことができ今後の業務の力になりました。

⑦ 【遠隔】授業を受講するにあたってのサポート体制に対する満足度はいかがでしたか。(選択式/必須回答)

- 満足している → 8名
- どちらかといえば満足している → 1名
- どちらかといえば不満がある → 0名
- 不満がある → 0名

⑧ 【対面】授業を受講するにあたってのサポート体制に対する満足度はいかがでしたか。(選択式/必須回答)

- 満足している → 8名
- どちらかといえば満足している → 1名
- どちらかといえば不満がある → 0名
- 不満がある → 0名

⑨ 新型コロナウイルス感染症の収束後、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)スキルアッププログラムに遠隔授業(オンライン授業)を正式に導入することについて、どのように思われますか(2021年度は新型コロナウイルス感染症対策として、遠隔授業を特例措置として導入しました。なお、導入については検討の段階です)。(選択式/必須回答)

- 可能であれば、全ての講義を【対面】授業で行う方が良いと思う → 2名
- 講義内容に応じて、対面授業/遠隔授業の併用があって良いと思う → 6名
- 可能であれば、全ての講義を【遠隔】授業で行う方が良いと思う → 1名

⑩ 2021年度に「遠隔授業」で受講された講義のなかで、講義の内容から考えて「対面授業で実施した方が良い」または「対面授業で受講しなかった」と感じる講義がありましたら、教えてください。（記述式/自由回答）

■ファシリテーションについての講義は遠隔では難しかったかと思います。遠隔でもグループワークは可能ですが、対面の方が多くのことを学べると思います。

■最終報告会

■中間報告会と最終報告会は対面授業の方が良いと感じます。

■ケースワーク（実際には対面の方がやりやすいかなとは思いましたが、今後、ICTを活用したケースも増えると思うのでそういった意味では遠隔授業でも良いのかもしれない）

■ファシリテーションの実際とワークショップ運営

■特にありませんでしたが、遠隔の技術をもっと駆使すれば、対面の場合とほぼ同じ進め方ができたのではないかと思う講義もありました。

■グループワークや演習がメインの講義は対面で受講したかったです。

■ファシリテーションの実際とワークショップ運営

⑪ 2021年度に「対面授業」で受講された講義のなかで、講義の内容から考えて「遠隔授業で実施した場合でも、同等の教育効果があった」と感じる講義がありましたら、教えてください。（記述式/自由回答）

■対面で受講した講義については、対面で受講出来て良かったと思います。

■グループワークがない講義

■社会保障制度の新たな動向Ⅱ

■社会保障制度の新たな動向Ⅱ、コミュニティ設計

■講義名まで覚えておりませんが、グループワークのないもの又は少ないものについては、遠隔で十分と感じたほか、録画の視聴、オンデマンドでの受講コマの導入もありかなと思った講義もありました。

⑫ 「遠隔授業」の実施（導入等）について、ご意見、ご感想等がありましたら、ご自由にご記入ください。（記述式/自由回答）

■自宅が遠方の方や子どもの世話等がある受講生もいるので、遠隔での受講も全ての講義で認めていただきたい。

■グループワーク等がなく基本的に講義を聞くことがメインの内容であれば、遠隔でも対面でも効果は変わらないと思います。

■安全度の部分で遠隔授業だった事で安心に繋がった。しかし座学だけでは学べない実践体験できる講義については対面での授業の方がより身につけやすいと感じた。

■通学の問題や体調が良くない時の受講のしやすさなどで遠隔授業でのメリットもあるが、講義の効果という面では遠隔授業のメリットは無いと感じた。

ただ、遠隔授業ではミニツペーパーの提出までに時間の猶予があったので、講義を振り返り、自分の中でまとめる時間をとることができたが、対面授業では疲れた頭でその場で考えをまとめきれずに提出したので、その点は遠隔授業の良かった点と感じます。しかし、対面授業でもミニツペーパーの提出に猶予をもらえるのであれば、遠隔授業の良かった点は思いつきません。

■授業を受けるという点に関しては、遠隔授業のメリットもあったと感じています。対面授業に比べ、講師の方、事務局の方の負担は大きいのではとも感じました。

受講生同士のつながりを作っていくという点については、オンラインでは何か仕掛けがないと難しいのかも思うところもありました。

■特に遠方から受講するには大変ありがたいです。

■社会保障制度の概論等の講義であれば、遠隔授業でよいと思います。ただ遠隔授業の場合の授業時間とミニツペーパー記載時間が講師によってあいまいであったので統一してほしいと思いました。

■遠隔授業が増え自分のパソコンのカメラが不調になったときに、迅速にリモート用のカメラを送っていただき、ありがとうございました。不慣れでしたが、スムーズに受講することができました。

⑬ 現行のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムでは、修了要件のひとつに「120時間以上の講義を履修すること」を設けています。この要件を緩和できると想定した場合、「120時間以上」に対する実感として最も近いものを選んでください。（選択式/必須回答）

■適切 → 3名

■負担は大きいですが、必要な時間数であるため減らさない方が良いと思う → 5名

■負担が大きいため、減らした方が良いと思う → 1名

⑭ 【設問⑬で「負担が大きいため、減らした方が良いと思う」と回答した方のみ】

※回答対象者1名

「120時間以上の履修時間」について「負担が大きいため、減らした方が良いと思う」とご回答いただいた方にお伺いします。2021年度に受講された実感から、何時間程度が適切と思われるか教えてください。（選択式）

■60時間程度（2021年度の1/2の時間数） → 0名

■60時間～90時間程度（2021年度の1/2～3/4の時間数） → 1名

■90時間～110時間程度（2021年度の3/4、または微減程度の時間数） → 0名

■その他 → 0名

⑮ 現行のコミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムは、4月に開講し、3月に閉講（修了判定含む）するという1年間のプログラムとして開講しています。プログラムの開講期間について、以下の選択肢の中から、最も実感に近いものを選んでください。（選択式/必須回答）

■適切 → 5名

■負担は大きいですが、必要な期間であるため短くしない方が良いと思う → 3名

■負担が大きいため、短くした方が良いと思う → 1名

■その他 → 0名

⑩ 【設問⑨で「負担が大きいため、短くした方が良いと思う」と回答した方のみ】

※回答対象者 1名

「1年間の開講期間」について「負担が大きいため、短くした方が良いと思う」と回答いただいた方にお伺いします。2021年度に受講された実感から、どのくらいの開講期間が適切と思われるか教えてください。（選択式）

- 6ヶ月程度 → 0名
- 6ヶ月以上1年未満 → 1名
- その他 → 0名

⑪ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムをお知りになられた経緯について、以下の選択肢の中から該当するものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）

- マナパス → 0件
- 本学のウェブページ → 1件
- 所属する団体への本学からの郵送物等 → 3件
- 所属する団体内でのメール等でのお知らせ → 4件
- 所属する団体内での口コミ → 0件
- 所属【外】の団体からのメール等でのお知らせ → 0件
- 所属【外】の団体の方からの口コミ → 1名
- その他 → 3件

【その他】の回答内容： 所属団体の上司
所属する団体の上席からの案内
これまで2名の職員が受講していたため

⑩ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムの受講を同僚等周囲の方に勧めたいかについて、以下の選択肢の中から、該当するものを全て選んでください。（選択式（複数選択可）/必須回答）

- CSW や類する役割での業務に関する全般的な知識・スキル・態度等の習得が必要な方に勧めたい → 7 件
- 所属する団体での業務に関する全般的な（CSW の役割に限らない）知識・スキル・態度等が必要の方に勧めたい → 5 件
- 新たな分野・領域に挑戦する方に勧めたい → 1 件
- ファシリテーション能力等、CSW や類する役割に求められる特定のスキルを習得・向上させたい方に勧めたい → 4 件
- ICT の活用等、CSW の役割に限らない業務全般をより円滑に進められるスキルを習得・向上させたい方に勧めたい → 0 件
- CSW や類する役割に必要な最新知識を身に付けたい方に勧めたい → 1 件
- 外部の組織とのネットワークを作りたい方に勧めたい → 1 件
- 受講を勧めたいとは思わない → 0 件
- その他 → 0 件

⑪ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムでは、その年度に新しく開講することになった科目（受講年度に開講していなかった科目）を修了生のみなさんに公開する「フォローアップ授業科目制度」を設けています。この他に、修了生のみなさまを対象とした制度等で希望されるもの（サポート体制等）がありましたら、教えてください。（記述式/自由回答）

■CSW スキルアッププログラムの中では基礎的な学びの講話であれば、フォローでは実践編みたいなものがあれば嬉しいなと思いました。また、新たな知識を得る機会のほかに、受講後の実践に関して、どうだったのかなど、皆様のその後の活動などを共有できる場があると嬉しいと思いました。

■事例検討にあたってのアドバイスや先進事例の教授を受けることができる受け皿的な同窓会的なネットワーク、仕組みが欲しい（同期以外もという趣旨です）。

■受講年度に開講していなかった科目以外も、履修していない科目などを公開していただけたらありがたいです。修了生同士の交流の機会などがあればよかったです。

⑳ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムで教えてほしかったこと（教育内容）がありましたら、ご自由にご回答ください。

（記述式/自由回答）

■幅広い分野の講義があったため、十分な内容であったと思います。

㉑ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラムを受講して良かったこと、または有益だと感じる内容がありましたら、教えてください（教育内容、事務局体制等のプログラム全般に関する内容で結構です）。

（記述式/自由回答）

■事前に学びたいと考えていたことだけではなく、様々な内容の講義があり、視野を広げることができたと思います。また、対面授業が多ければ、受講生同士のつながりもつくりやすいのではないかと思います。

■災害関連、障害者関連の講義は個人的に参考となった。

■教育内容としては、基礎的なところから実践面まで体系的に学ぶことができ自らの実践の場で活かすことができたと感じています。遠隔授業の対応の仕方などは、実際に遠隔で講座や研修を開催する際に非常に参考になるものでした。今後の実践に活かしていくという点では、講師の方々、事務局の方々、受講生の方々は大きな社会資源であると感じています。

■他の受講生と横の繋がりができたこと。

■自身で興味のある科目を選択できるところがよかったです。CSR やクラウドファンディング等普段あまり学ばない分野についても学ぶ機会を設けることができたのはよかったです。

⑫ コミュニティソーシャルワーカー (CSW) スキルアッププログラムを受講して困ったこと、または改善してほしいことがありましたら、教えてください (教育内容、事務局体制等のプログラム全般に関する内容で結構です)。

(記述式/自由回答)

■欠席の場合でもミニッツペーパーは提出するので、欠席の上限があるのは少し違和感を感じました。

■遠隔授業だと電波状況によって何を話しているかが聞き取れないことがあって困った。

■一つの授業の中で2つのミニッツペーパーを提出するときは、ちょっと驚きました (講師の先生が違うので仕方ないのですが…)

■オンライン講義において、講義時間ぎりぎりまで授業があり、ミニッツペーパーの記載は翌日までというのは負担が大きかった。時間内に記入する時間を設けていただき、時間内に提出できるところまででよい (希望者は翌日まで再提出可など) というのがよいのではないかと感じたが、受講生の受講環境が統一ではないので、難しさもあるのだと感じた。せっかく同じ年度に受講したのだから、もっと受講生同士対面であったり、講義を受けられたらよかったなと感じた。

⑳ その他、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム全般に対し、ご意見、ご感想等がありましたら、ご自由にご回答ください。

■ 1年間講師や事務局の方々には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

■ 事務局の方から丁寧に連絡をいただき、遠隔授業時の操作方法や、授業の開催形態の変更にも戸惑うことなく一年間学ぶことができました。ありがとうございました。

■ とても有意義なプログラムだったと感じており、多くの方に受講することを進めたいと感じる内容だった。その一方で人に薦めた際に、講義の長さを懸念する声があったため、そこが改善すれば多くの人がこのプログラムに参加するのではないかと思ったりもした。

■ 講義が2週連続だったり、月の土曜日の3/4が講義だったりと体力的に大変だった。土日でも仕事が入ることもあるので、休みが取れないことや忙しい時期に講義が多い時期が重なったりして、きつかった。しかし、1年間の講義を受けてみて、いらない講義は何かと考えると、思いつくのはほとんど無く、あのようなスケジュールになるのは仕方がないと感じています。

■ ほとんどが社協の皆さまなので、今後、社協以外の団体の方の受講が増えるといいな～と勝手ながら感じたところでした。

■ 1年間ありがとうございました。仕事をしながらの受講は大変でしたが、さまざま学ぶことができよかったです。多くの講師を調整いただきありがとうございました。アンケート提出もぎりぎりになり申し訳ありません。

※回答内容について、明らかな誤字・誤変換のみ事務局にて修正のうえ記載

※自由記述において、「特になし」に類する内容は記載せず

9. 自己点検・評価について（アンケート等に基づく次年度以降への変更・検討等）

「8. 受講生（修了生）アンケート実施結果」等に基づき、広報活動、教育カリキュラムの内容及び運営体制等について、改善、充実等を図る。

(1) 自己点検・評価、ならびに次年度以降への改善、充実等

① 広報活動

本プログラムは、社会福祉協議会や地域福祉分野に従事する者を主な受講対象者として想定している。そのため、宮城県内社会福祉協議会や他の社会福祉法人等が、広報活動の主な対象である。特に仙台市社会福祉協議会からは毎年度複数の受講申込み者があり、一定の効果があると評価できる。

しかしながら、社会福祉法人（社会福祉協議会を含む）のみを主な受講対象者として設定すると、より多くの受講生獲得は難しい。社会福祉法人等に対する着実な広報活動は継続しつつ、新たな受講生層（職業、居住地等）の開拓が求められる。刊行物のみならずデジタルツールを用いた広報活動の方法について、今後検討を行う。

また、本プログラムのみならず、リカレント教育のプログラムにおいては、修了生による組織内外での“口コミ”が、大きな影響力を持つと言われている。修了生同士、受講生同士のみならず、受講検討段階の人が修了生・受講生との接点を得られるような仕組みについても検討を行う。

② 教育カリキュラム、授業内容等について

(i) 教育カリキュラム全般について

「受講生（修了生）アンケート」の回答からもわかるように、本プログラム全体に対する満足度は非常に高い。本プログラムにおける教育カリキュラムの内容（設置科目等）については、毎年度効果検証を行い、改善を図っており、そのことが受講生の総合的満足度に結びついているものと評価できる。

(ii) 実務家教員の配置について

実務家教員の積極的配置は、本プログラムの大きな特徴であり、受講生からも好評を得ているため、今後も継続すべきである。

社会福祉分野等における実務家教員の配置は、名義後援団体等からの厚い支援により実現できている。現在の名義後援団体との関係性を継続するとともに、他団体等との連携・協力の可能性についても、今後検討を行う。

(iii) 学際性をもったカリキュラム構成等について

実務家教員の積極的配置に加え、学際性に富んだカリキュラム構成は本プログラムのもう一つの大きな特徴となっている。“学際性”は、コミュニティソーシャルワーカーの育成及びスキルアップを高等教育機関である本学が担うことの大きな意義であり、独自性とも言える。

受講生アンケートからも、「プログラム受講前に学びたいと考えていたこと“以外”についても学修できた」との評価が得られている。

(iv) フォローアップ授業科目について

2021年度はフォローアップ授業科目として11科目を設置し、延べ17名から聴講の申込みがあった。（「5.(2)②フォローアップ授業科目聴講生」参照）。本制度は、過年度の修了生からも好評を得ているため、担当講師の協力のもと、今後も継続する。

なお、2021年度は開講形態が未定の状態で聴講生を募集したが、「遠隔授業であれば聴講したい/聴講可能」という条件のもとで申込みをする修了生が複数あった。フォローアップ授業科目については、対面での聴講だけでなく、期間を限定して授業動画を公開するなど、柔軟な制度運用に向けて検討を行う。

③ 事務局運営体制等について

開講形態の変更等については「4.新型コロナウイルス感染症対策による開講形態の変更等」に記載の通り、受講生及び講師に対し連絡等を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年4月以降、本プログラムは遠隔授業による開講を余儀なくされてきた。しかしながら、Zoom使用に関する簡易マニュアルの更新や、遠隔授業受講にあたってのガイドラインをアップデートするなど、2020年度の経験や反省点を活かし、万全な事務局体制を構築できたことは評価できる。サポート体制に関しては、受講生からも非常に高い満足度を得ている。

前述の通り、CSWスキルアッププログラムは対面授業での開講を前提としている。しかし、おおよそ1年半の期間にわたって遠隔授業を運営したことにより、事務局体制という観点のみから言えば、対面授業・遠隔授業のいずれの場合でも十分なサポート体制を提供できる状態にある（後述のように、遠隔授業の本格的な導入に関しては慎重な検討・判断が必要である）。

(2) 遠隔授業の導入について（検討事項）

2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、大部分の講義が遠隔授業となったが、一部の講義については対面授業で開講した。2021年度は本プログラム開設以来、遠隔授業と対面授業が混在する初めての年度となった（2016年度～2019年度は全て対面授業。2020年度は全て遠隔授業）。その意味からも、2021年度の修了生から得られる意見等は、遠隔授業の導入に関して非常に重要かつ貴重である。このような背景により、アンケートの実施にあたっては、特に開講形態についての設問を充実させた。

事前にある程度予想できた結果ではあるが、グループワークや演習を伴う授業に関しては、対面での開講を求める声が多数を占めた。先走った判断は控えなければならないが、遠隔グループワーク（演習）・対面グループワーク（演習）の双方を経験した修了生から、このような意見が多く寄せられたことから、本プログラムの全てを遠隔実施とすることは、教育効果を考えると難しいと言わざるを得ない。

さらに、コミュニティソーシャルワーカーという役割・立場をも考慮すると、職務上の現場においても、“対面”が重要な要素の一つであることは想像に難くない。職業実践の場が“対面”を求める以上、いわばその訓練とも言える本プログラムの授業を、“対面”で開講することは重要な意味を持つと言える。

一方で遠隔授業の導入は、受講可能地域の拡大につながったこともまた事実である（2021年度は、緊急対応により一部講義の遠隔化を決定したところ、北海道在住者1名から受講申込みがあった）。演習を伴わない講義については、遠隔授業でも同等の教育効果があったのではないかと、とする意見も複数ある。

本プログラムに遠隔授業を本格的に導入することに関しては、各々の科目の内容（一律な遠隔授業の導入は十分な教育効果を失う可能性がある）やプログラム全体の達成目標等に十分に配慮をしたうえでの、慎重な判断が求められる。

しかし、実際の導入如何に関わらず、「本プログラムに遠隔授業を導入するか」という問いは、本プログラムの目的や人材養成像を改めて問い直すことにつながるであろう。換言するならば、遠隔授業導入という観点から検討を行うことは、本プログラムの点検・評価、ひいては改善・充実に大きく資するものと判断できる。

以上のことから、本件については引き続き検討を行う。

(3) アーカイブ動画の利用方法について（検討事項）

本プログラムは、2016年度の開設時より、全ての授業を録画しアーカイブしている。授業の録画は欠席者への提供が第一目的であるが、アーカイブ化された授業データの利用については、様々な利用可能性がある。受講生のみなら

ず、講師に対して（他の講義との連携/連続性、授業改善等）も提供する等、効果的な利用方法について、今後検討を行う。

(4) プログラム受講に対する敷居を下げる方法について（検討事項）

CSWスキルアッププログラムは、120時間以上の履修を修了要件のひとつに定める、体系性を持った教育プログラムである。本プログラムが目指すところの人材養成を達成するためには、まとまった時間の受講が必要である。このことは受講生アンケートにおいて、「120時間以上の履修」「1年間の開講期間」に対し、「適切」「負担は大きいが必要な時間数/期間」との回答が多数を占めていたことから自明である。

しかしながら、働きながら学ぶ社会人にとって「120時間以上」「1年間」という条件は、プログラム受講へのハードルにもなり得ることが予想できる。気軽にプログラムの内容を知ってもらうなど「受講に対する敷居を下げる」方法について検討を行う。

10. 終わりに

CSWスキルアッププログラムは開設から6年目を終え、累計修了生数は60名を超える。本プログラムは開設以来、受講生アンケート等に基づき、絶えず教育カリキュラムの検証、改善を図ってきた。また、宮城県社会福祉協議会及び仙台市社会福祉協議会等との緊密な連携・協力関係を構築することにより、県内の社会福祉、地域福祉現場における最新の情報等を受講生に提供する努力を重ねてきた。

このように教育プログラムの改善サイクルを絶えず実行してきたことが、受講生の1年間の学習に対するモチベーションを保ち、高い修了率を維持することに繋がっている。毎年度の修了生から、プログラム全体に対する高い満足度を得られていることも、その証左と言える。

「学び直し」の文言が、毎月のように雑誌の表紙を賑わせている例を挙げるまでもなく、「リカレント教育」や「社会人の学び直し」に対する、社会からの期待や要請は、今後さらに高まっていくことが予想される。本学においても、社会人教育への積極的な取り組みが求められるであろう。

CSWスキルアッププログラムは、2022年5月現在、本学が開講する唯一の履修証明プログラムである。本プログラムについては、自己点検・評価体制に基づくPDCAサイクルを絶えず実行することにより、引き続き改善、充実を図る。今後はさらに、本プログラムの運営により得られたリカレント教育の実施・運営に関するノウハウ等を蓄積し、本学における社会人教育の運営体制確立にも寄与することを目指していく。

以上



東北学院大学
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY